

# 大切な情報を知らせてくれるロボット

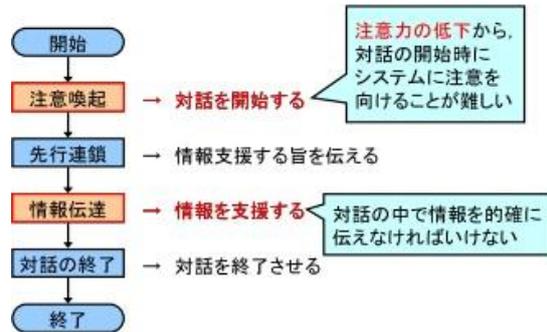
～ 高齢者の記憶と認知機能低下に対する生活支援ロボットシステムの開発

【進め方 - これまで 補足資料】

## ロボットによる高齢者の物忘れ支援の実証

高齢者やもの忘れが気になる人に対して、ロボットがタイミングよく話しかけ、その日の日程や行うべき行動を促す対話型情報支援システムのプロトタイプを開発を行いました。これまで、独居生活をしている軽度認知障害のある高齢者 5 名に臨床実験に参加していただいたところ、対話型の情報支援によって約 90%の割合で、注意喚起・情報伝達を行えていることが分かりました。

ここでいう対話型の情報支援とは、ロボットと高齢者の対話方法として、人同士の対話の構造から開発したプロトタイプを差し、対話を開始するための「注意喚起」、情報支援する旨を伝える「先行連鎖」、情報を支援する「情報伝達」、対話を終了させる「対話の終了」で構成されています。もの忘れが多くなってきた方は、注意力が散漫になる、音が聞こえにくくなるなどの特徴がみられますが、臨床実験の結果、この対話型の情報支援システムのプロトタイプとして有効であることが分かりました。



## 対話の構造

また、デイサービスへ出かける準備や、トイレなどの行動の促しなどの情報も、ご本人が理解し、遂行できることが分かりました。

[1] “認知症者を対象とした対話型情報支援システムの開発,” 成田拓也, 二瓶美里, 石渡利奈, 小野田穰, 小竹元基, 児島宏明, 大中慎一, 藤田善弘, 鎌田実, 井上剛伸, ヒューマンインタフェースシンポジウム 2010 講演論文集, pp29-34.